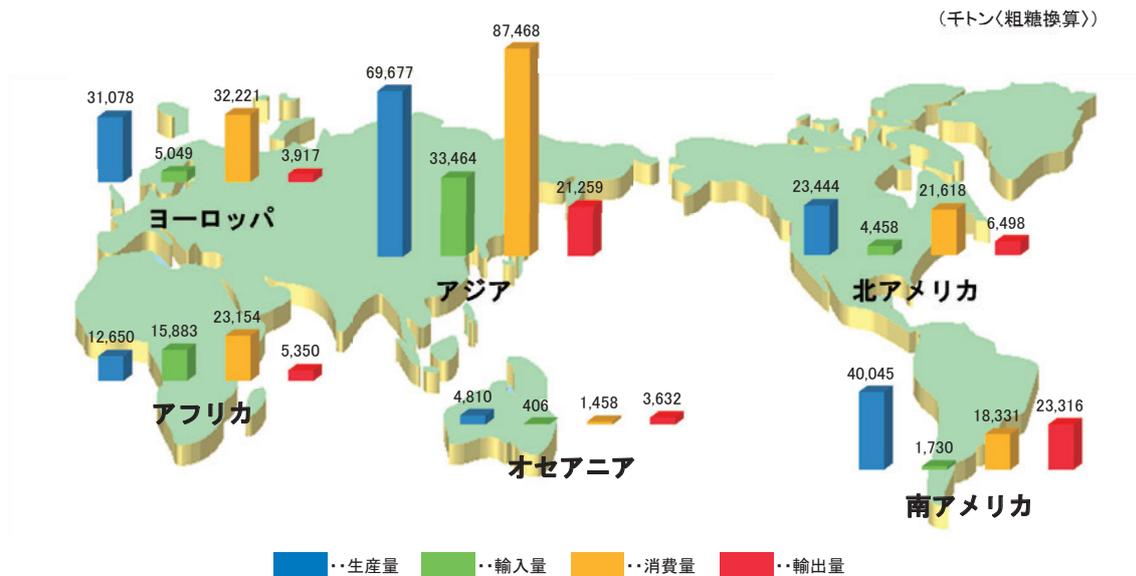


## 砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹

### 1. 世界の砂糖需給 (2019年9月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2019/20年度予測値)



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,017	160,315	56,023	164,778	56,244	50,333	30.5
2014/15	69,506	183,717	59,707	176,511	62,081	74,338	42.1
2015/16	74,338	175,955	67,776	179,659	69,077	69,334	38.6
2016/17	69,334	180,387	70,759	181,572	71,288	67,619	37.2
2017/18	67,619	195,315	67,377	180,681	69,466	80,164	44.4
2018/19	80,164	186,627	60,445	184,027	61,592	81,618	44.4
2019/20 (2019年9月予測)	81,618	181,706	60,991	184,250	63,971	76,093	41.3

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2017/18年度は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2020年1月号の掲載予定となります。直近の内容は2019年10月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002062.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002062.html)

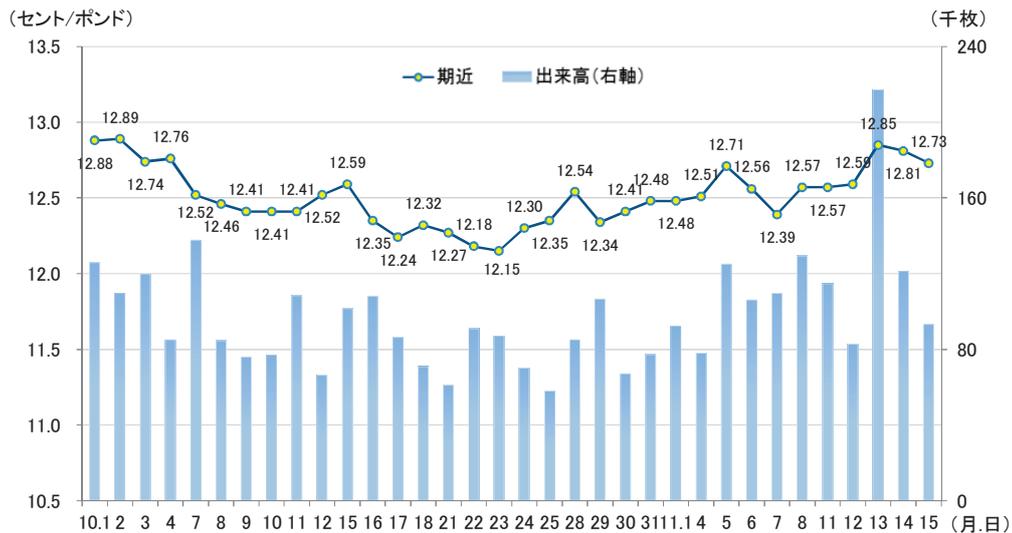
「主要国の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002063.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002063.html)

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖先物相場の動き (10/1 ~ 11/15)

～目立った材料がなく、総じて小幅な値動きにとどまる～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)

注：3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2019年9月の推移を見ると（3月限）<sup>がつぎり</sup>、1日は1ポンド当たり12.88セント<sup>(注1)</sup>の値を付けた。積極的に買う材料がないこともあり、3日は同12.74セントまで下落した後、翌日の小幅な反発を挟んで、7日は同12.52セントまで値を下げた。その後は、全般的に様子見ムードが広がり、取引が低調であった結果、おおむね横ばいで推移し、15日は同12.59セントとなった。供給過剰への警戒感<sup>は</sup>根強く、16日は同12.35セントまで値を下げ、その後もじりじりと値を下げる展開となり、23日は同12.15セントの値を付けた。24日はブラジルサトウキビ産業協会 (UNICA)<sup>(注2)</sup>が発表した10月中旬現在の生産量が想定を下回ったことが押し上げ要因となり、同12.30セントと4営業日ぶりに反発した。その後は、売られ過ぎの反動もあり買い戻しの動きが強まり、28日は同12.54セントまで値を上げた。29日は、2営業日連続で原油価格が下落した影響<sup>(注3)</sup>で反落し、同

12.34セントまで値を下げた。31日は、月初と比べ0.40セント安い同12.48セントとなった

12セント半ばでもみ合う展開で11月に入ると、5日は同12.71セントまで値を上げたものの、すぐに反落し、7日は続落して同12.39セントとなった。翌8日は反発して同12.57セントまで値を戻し、13日は同12.85セントと1カ月半ぶりに12.80セント台に乗せた。15日は同12.73セントの値を付けた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

(注3) 一般に、原油価格が下落すると、代替燃料であるバイオエタノールの需要が低下する。バイオエタノールへの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが減るため、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の供給が増える方向に作用する。その結果、需給緩和の懸念が強まり、商品相場は下落する傾向にある。

### 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2019年11月時点予測)

本稿中の為替レートは2019年10月末日TTS相場の値であり、1ドル=110円(109.88円)、1元=15.76円である。

#### ブラジル

##### 2019/20年度 (4月～翌3月) の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積：851万ha (前年度比1.6%減)  
生産量：6億3110万トン (同1.7%増)

###### 【砂糖 (甘しゃ糖)】

生産量：3109万トン (同0.4%減)  
輸出量：2046万トン (同2.4%減)

#### 2019/20年度、輸出量はわずかに減少する見込み

L M C International (農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社) の2019年11月時点の予測によると (以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2019/20砂糖年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、851万ヘクタール (前年度比1.6%減) とわずかに減少するものの、生育期間を通じて天候がおおむね良好で、順調に生育していることから、サトウキビ生産量は6億3110万トン (同1.7%増) とわずかに増加すると見込まれる (表2)。

砂糖生産量は、長期化する砂糖の国際価格低迷などの影響を受けて、多くの製糖業者でエタノール生産を強化する動きが目立つことから、3109万トン (粗糖換算 (以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算)、同0.4%減) と横ばい、輸出量は2046万トン (同2.4%減) とわずかに減少すると見込まれる。

#### ブラジル大統領、サトウキビの作付け制限を緩和

ブラジルのジャイル・ボルソナロ大統領は11月

5日、サトウキビの作付け区域を制限することでアマゾン川流域の環境保全に一定の役割を果たしてきた「サトウキビの農業生態学的ゾーニング制度」<sup>(注)</sup> を取り消すと表明した。

2009年に行政命令によってスタートした同制度は、全土に広がるさまざまな土壌の性質、立地などの情報を基にサトウキビの作付けに適した土地であるかどうかを地域ごとに判定し、その情報を広く提供することによって適地適作を促すことを主な目的としている。この制度で適地とされた土地以外でサトウキビを栽培した場合、製糖工場の建設に関わる許認可や政策的な支援・優遇措置が受けられないとされる。しかし、サトウキビの作付けが許された土地のほとんどがサトウキビしか育たないようなやせた土地で占められているため、この制度は以前からサトウキビの単収向上を阻害する要因の一つとして指摘されてきた。このため、製糖業者やサトウキビ生産者などからは、作付け要件の見直しを求める声が上がっていた。

今回の決定によってアマゾン川流域での森林伐採が加速するとの懸念が出ているが、政府は「森林伐採による農地転用を禁止する法律や、持続可能な生産を促進するための政策は措置済み」と強調した。また、同国のテレザ・クリスチーナ農務相は「制度

の取り消しの目的は、サトウキビ生産に係る複雑な行政手続きを簡素化すること」と説明し、国民に理解を求めた。

(注) ブラジルでは、世界的なエネルギー資源の需給逼迫への懸念を背景に、2000年代からバイオエタノール産業が発展した反面、原料となるサトウキビの作付けを拡大する手段として森林伐採により農地を開墾する事例も見られた。このため、この制度は環境と調和のとれたサトウキビ生産を実現することを基本理念として掲げている。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

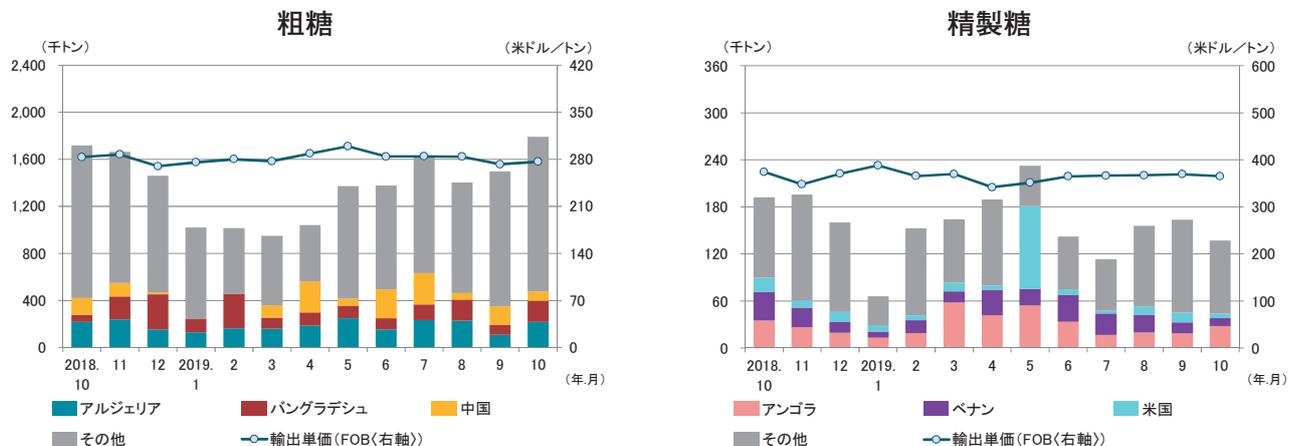
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (10月予測)	2019/20 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,488	8,617	8,649	8,473	8,509	▲ 1.6	
サトウキビ生産量	651,841	641,066	620,825	629,000	631,100	1.7	
砂糖	生産量	41,670	41,517	31,225	30,173	▲ 0.4	
	輸入量	4	2	3	3	▲ 9.6	
	消費量	11,275	10,852	10,635	10,635	0.0	
	輸出量	30,117	31,026	20,969	19,538	▲ 2.4	
	期末在庫量	1,022	663	287	339	290	1.0
	期末在庫率	2.5	1.6	0.9	1.1	0.9	0.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3位を表示。

## インド

### 2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：459万ha（前年度比9.8%減）

生産量：3億6695万トン（同8.8%減）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：2933万トン（同17.8%減）

輸出量：442万トン（同19.7%減）

### 2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

多くの製糖業者が経営難に陥り、生産者への原料代（サトウキビ代金）の支払いが滞っていることから、生産者の生産意欲の減退を招いているほか、西部地域の各地で発生した洪水により圃場の浸水被害に見舞われたことなども影響して、2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は459万ヘクタール（前年度比9.8%減）、サトウキビ生産量は3億6695万トン（同8.8%減）と、ともにかなりの程度減少すると見込まれる（表3）。

9月からエタノールの取引価格が引き上げられたことを受け、今後サトウキビをエタノール生産へ仕向ける動きが活発になると予想されるため、前述したサトウキビ生産の落ち込みによる影響も併せて考慮すると、砂糖生産量は2933万トン（同17.8%減）、輸出量は442万トン（同19.7%減）と、ともに大幅に減少すると見込まれる。

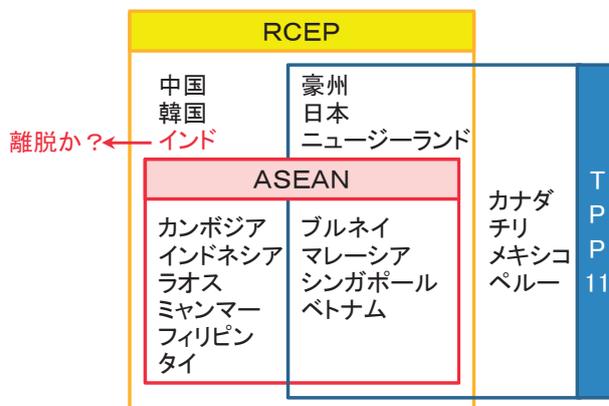
### インド政府、中国と貿易障壁の縮減に向けた交渉を開始

インドと中国は10月12日、モノやサービスの貿易、投資に関する障壁の縮減に向けた交渉を開始することに基本合意した。また、11月13日・14日にブラジルで開かれた、ブラジル、ロシア、インド、中国および南アフリカの5カ国（BRICS）の首脳会議でも、インドと中国の両首脳は個別に会談し、今後の交渉について円滑で建設的な協議を行うことを確認した。

インドは、対中貿易で約530億ドル（5兆8300億円）の貿易赤字を抱えているとされ、以前から中国政府に対し貿易不均衡の是正に向けて市場アクセスの拡大を求めてきた。今回の合意は、インドの呼び掛けに中国がようやく応じた形となった。インドのナレンドラ・モディ首相は、「われわれは、相互にバランスの取れた貿易関係の構築に向け、高いレベルの貿易協定の締結を目指している。実現すれば、砂糖やコメなどの農産物の対中輸出が拡大するだろう」と期待を示した。

現地報道によると、インド政府が東アジア地域包括的経済連携（RCEP。図3）からの離脱を表明したことを受け、「今後のRCEP交渉の行方次第では、中国との貿易協定を締結しても、中国への砂糖輸出量がインド政府の期待通りに増加するか不透明」との声がインド国内の製糖関係者から上がっている。

図3 アジア・太平洋地域における経済連携の状況



資料：外務省のホームページを基に農畜産業振興機構作成  
注：2019年10月現在。

表3 インドの砂糖需給の推移

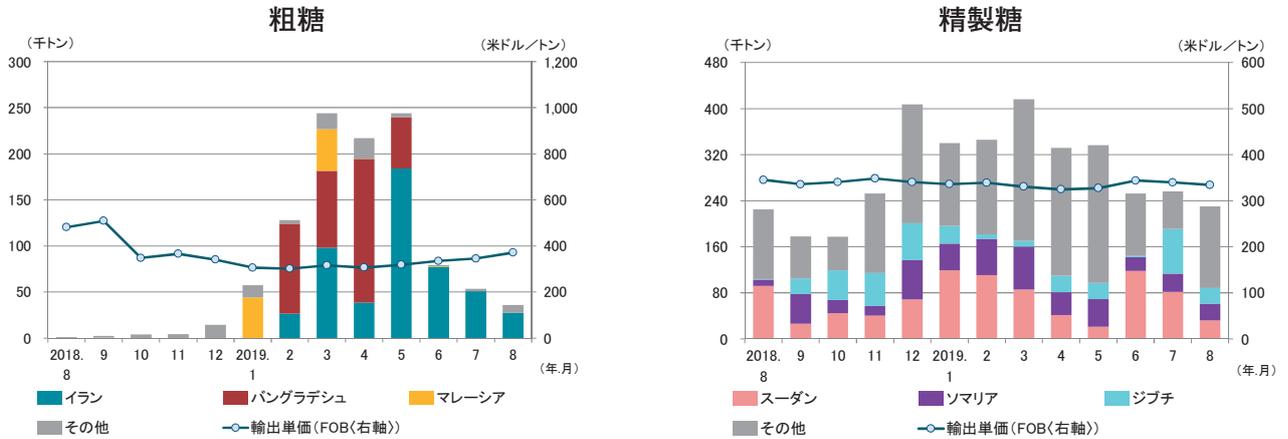
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (10月予測)	2019/20 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,327	4,826	5,090	4,657	4,590	▲ 9.8	
サトウキビ生産量	323,556	408,655	402,152	370,168	366,947	▲ 8.8	
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,690	29,868	29,329	▲ 17.8
	輸入量	2,536	2,307	646	100	500	▲ 22.6
	消費量	26,568	27,232	27,537	28,084	28,084	2.0
	輸出量	2,233	2,361	5,504	4,220	4,420	▲ 19.7
	期末在庫量	3,952	11,710	15,007	13,209	12,331	▲ 17.8
	期末在庫率	13.7	39.6	45.4	40.9	37.9	7.5ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

## 中国

### 2019/20年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：122万ha(前年度比0.4%増)

生産量：7369万トン(同6.2%減)

【てん菜】

収穫面積：24万ha(前年度同)

生産量：1137万トン(前年度比2.5%減)

【砂糖(甘しや糖およびてん菜糖)】

生産量：1075万トン(同7.6%減)

輸入量：545万トン(同12.9%増)

### 2019/20年度、輸入量はかなり大きく増加する見込み

2019/20砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は122万ヘクタール(前年度比0.4%増)と横ばいで推移するものの、天候不順などの影響で生育が停滞していることから、サトウキビ生産

量は7369万トン(同6.2%減)とかなりの程度減少すると見込まれる(表4)。てん菜については、収穫面積は24万ヘクタール(前年度同)と横ばいで推移するが、主産地である内モンゴル自治区で広範囲の害虫被害が発生した影響から、てん菜生産量は1137万トン(前年度比2.5%減)とわずかに減

少すると見込まれる。

これに伴い、砂糖生産量は1075万トン（同7.6%減）とかなりの程度減少し、その不足分を賅うため、輸入量は545万トン（同12.9%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

## 広西チワン族自治区政府、砂糖の備蓄在庫を放出

広西チワン族自治区政府は11月11日、砂糖の備蓄在庫のうち約13万トンを放出すると発表した。同政府は、その理由を「広西チワン族自治区の2019/20年度の砂糖生産量が前年度と比べかなり

減少すると見込まれるため、国内産糖の安定供給を確保する必要がある」とした。しかし、同自治区における2019/20年度の砂糖生産量の見通しについて、具体的な数字は明らかにされなかった。

現地報道によると、夏場の日照不足と長雨の影響でサトウキビの収量、糖度ともに著しく低下する生育障害が多発しており、2019/20年度の砂糖生産量は前年度の630万トンに届かないとみられる。なお、今回の備蓄在庫の放出は入札によって行われる予定で、最低落札価格は直近1カ月の市場価格（卸売価格）とほぼ同水準の1トン当たり5800元（9万1408円）に設定されている。

表4 中国の砂糖需給の推移

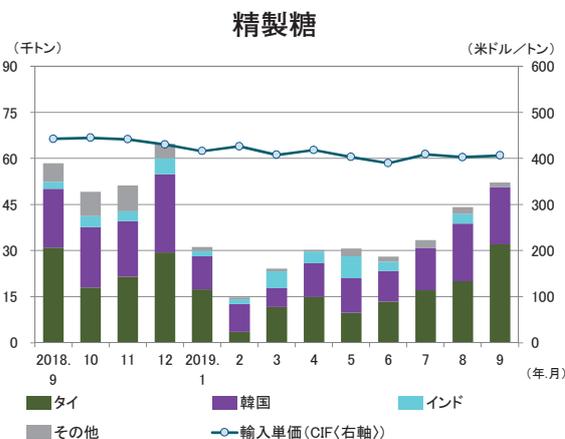
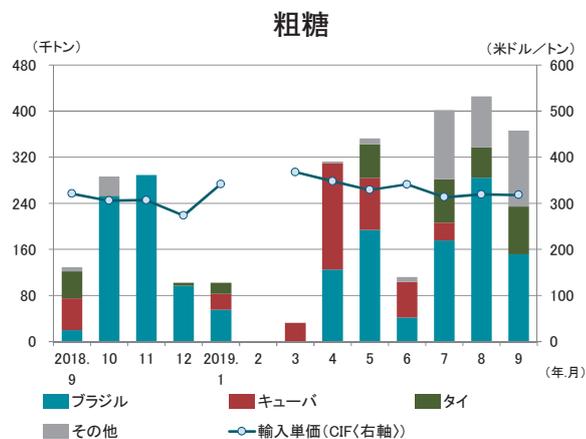
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (10月予測)	2019/20 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,178	1,231	1,219	1,223	1,223	0.4	
サトウキビ生産量	73,690	76,780	78,590	73,686	73,686	▲ 6.2	
てん菜収穫面積	168	186	243	243	243	0.0	
てん菜生産量	8,820	9,590	11,670	11,373	11,373	▲ 2.5	
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	10,753	10,753	▲ 7.6
	輸入量	5,715	6,118	4,830	5,449	5,452	12.9
	消費量	16,847	16,414	16,522	16,522	16,522	0.0
	輸出量	146	195	228	187	190	▲ 16.7
	期末在庫量	10,689	11,345	11,064	10,296	10,557	▲ 4.6
	期末在庫率	62.9	68.3	66.1	61.6	63.2	2.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## (参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

注3：2019年2月の粗糖は、輸入実績がなかった。

## E U

### 2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【てん菜】

収穫面積：161万ha（前年度比5.7%減）  
生産量：1億1748万トン（同2.8%増）

#### 【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1796万トン（同1.6%減）  
輸出量：115万トン（同39.8%減）

### 2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は161万ヘクタール（前年度比5.7%減）とやや減少すると見込まれている（表5）。てん菜生産量は、深刻な干ばつに見舞われた前年度からの反動で1億1748万トン（同2.8%増）とわずかに増加すると見込まれる。

前年ほどではないものの平年より高温・乾燥した状況が続いた、EU最大の砂糖生産国フランスにおけるてん菜生産の落ち込みが響き、砂糖生産量は1796万トン（同1.6%減）とわずかに減少し、生産量が消費量を下回ると予想されることから、輸出量は115万トン（同39.8%減）と大幅に減少すると見込まれている。

### 欧州委員会、ネオニコチノイド系農薬の一種「チアクロプリド」の農薬登録を失効へ

欧州委員会は10月22日、ネオニコチノイド系農薬の一種であるチアクロプリドの農薬登録について

2020年3月をもって失効させると発表した。同薬剤は、てん菜の黄化症状が多発した際の緊急防除剤としての使用が認められているほか、ばれいしょや小麦、豆類などの穀物の病害虫防除に広く用いられており、EUでは「カリプソ」「ビスカヤ」のブランド名で販売されている。2020年4月から農薬メーカーは同農薬をEU域内で製造・販売することができなくなるが、すでに市場に出回っている在庫品の販売・使用については一定の猶予期間が与えられるとみられる。

EUでは、2018年末にクロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムを主成分とする三つの薬剤について屋外での使用を禁止する規則が施行されるなど、近年、ネオニコチノイド系農薬の使用を規制する動きが見られ、今回の欧州委員会の決定によってその動きがさらに進むことになる。

一方、こうした規制をめぐっては、規制理由の一つにミツバチに及ぼす影響が挙げられているが、てん菜など開花する前に収穫する作物への使用も一律に規制することを疑問視する声は今も根強くある。

表5 EUの砂糖需給の推移

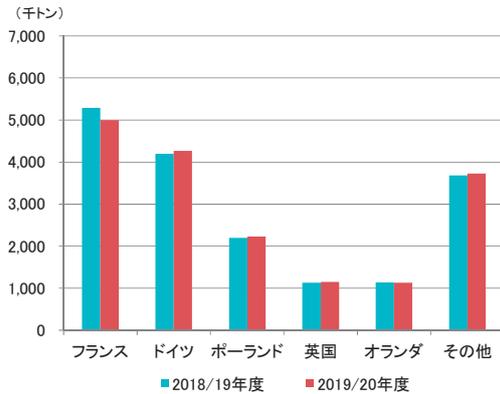
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (10月予測)	2019/20 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,466	1,732	1,710	1,618	1,613	▲ 5.7	
てん菜生産量	107,986	138,437	114,308	118,538	117,475	2.8	
砂糖	生産量	17,069	21,578	18,241	18,045	▲ 1.6	
	輸入量	3,117	1,731	2,530	2,718	7.4	
	消費量	19,177	19,218	19,653	19,218	▲ 0.7	
	輸出量	1,510	3,809	1,909	1,392	▲ 39.8	
	期末在庫量	2,408	2,690	1,898	2,287	1,898	0.0
	期末在庫率	11.6	11.7	8.8	11.1	9.2	0.4ポイント増

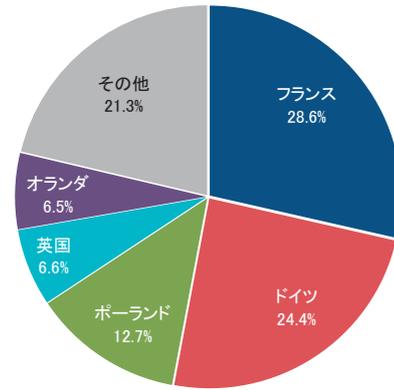
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2019年9月時点)



資料：欧州委員会  
注1：精製糖換算。  
注2：2018/19年度は暫定値、2019/20年度は予測値。



資料：欧州委員会  
注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

## 4. 日本の主要輸入先国の動向 (2019年11月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピン、グアテマラで、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1%（同3.1ポイント増）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はフィリピンについて報告する。

### 豪州

#### 2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：38万ha（前年度比0.7%増）  
生産量：3016万トン（同7.2%減）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：410万トン（同13.3%減）  
輸出量：303万トン（同11.5%減）

### 2019/20年度、砂糖生産量、輸出量ともにかなり大きく減少する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は38万ヘクタール（前年度比0.7%増）と横ばいで推移するものの、夏の記録的な猛暑による影響で生育の遅れが見られることから、サトウキビ生産量は3016万トン（同7.2%減）とかなりの程度減少すると見込まれる（表6）。

砂糖生産量はサトウキビの減産に加え、平均糖度

が前年度を下回る水準で推移していることも影響し、410万トン（同13.3%減）、輸出量は砂糖の国際価格の低迷で輸出を控える動きが見られることから、303万トン（同11.5%減）と、ともにかなり大きく減少すると見込まれる。

### クイーンズランド州政府、新たな環境規制への対応を促す

クイーンズランド州政府の環境相は10月18日、

世界自然遺産に登録されているグレートバリアリーフ（サンゴ礁）の保護強化を目的とした「グレートバリアリーフ保護対策法」の改正案<sup>(注)</sup>が9月に可決されたことに伴い、法令を順守するための実践的な技術を学ぶことができる州政府公認の研修プログラムを受講した生産者に対し、受講に必要な経費の一部を補助すると発表した。

同相は、「農業分野に関する新たな環境規制は、業界の同意の下で定めたものであり、すべての生産者が順守する必要がある。12月1日に法令が施行されるため、今回の制度を積極的に活用し、円滑な対応が進むことを期待する」と述べた。

これに対し、クイーンズランド州のサトウキビの生産者団体であるCANEGROWERSは同日、「われわれは、一貫して法令改正に反対する姿勢を示しており、新たな環境規制に一切同意していない」と述べ、同相の発言には生産者に誤解を与える表現が含まれているとし、強く抗議した。

(注) 改正されたグレートバリアリーフ保護対策法は、産業界の自発的な取り組みの推進に重きを置く現行法を見直し、施用した肥料や農薬の量と種類を詳しく州政府に報告させることや、圃場からの肥料・農薬成分の河川や地下水への流出を厳しく規制するなど行政の関与を強める内容となっている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (10月予測)	2019/20 (11月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	368	376	378	385	381	0.7
サトウキビ生産量	36,506	33,344	32,492	30,642	30,159	▲ 7.2
砂糖	生産量	4,797	4,463	4,725	4,160	▲ 13.3
	輸入量	68	29	19	20	7.0
	消費量	1,159	1,112	1,068	1,089	2.0
	輸出量	4,004	3,601	3,426	3,091	▲ 11.5
	期末在庫量	969	747	997	544	▲ 0.4
	期末在庫率	18.8	15.8	22.2	13.0	24.1

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：157万ha（前年度比12.2%減）

生産量：1億1500万トン（同12.2%減）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1323万トン（同14.4%減）

輸出量：1287万トン（同23.3%増）

### 2019/20年度、砂糖生産量は減少するものの輸出量は増加する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、157万ヘクタール（前年度比12.2%減）、サトウキビ生産量は1億1500万トン（同12.2%減）と、ともにかなり大

きく減少すると見込まれる（表7）。

サトウキビ生産の落ち込みに加え、全国的な天候不順による生育不良で糖度低下の傾向が見られることから、砂糖生産量は1323万トン（同14.4%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。一方、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するために輸出を強化するとみられることか

ら、輸出量は1287万トン（同23.3%増）と大幅に増加すると見込まれる。

## タイ政府、グリホサートを主成分とする除草剤などを禁止へ

タイ政府の国家有害物質委員会（NHSC）は10月22日、グリホサート、パラコートの主成分とする除草剤およびクロルピリホスを主成分とする殺虫剤の3種の農薬について、製造、輸入、輸出、保有を禁止する決議を採択した。これを定めた有害物質法は、12月1日に施行される。

これを受け、タイの農業団体は決定の差し止めを求めて裁判所に提訴するとともに、農薬が使用できない影響で収入が減少した場合、政府などに損害賠償を求める考えを示した<sup>(注)</sup>。また、タイ甘しや糖

技術者会議（TSSCT）は、禁止される農薬はサトウキビを生産する上で欠かせないものとなっている現状を踏まえ、「サトウキビの生産量が最大50%低下する」との試算を示し、「砂糖とエタノール産業に大きな打撃を与えるだろう」としている。

現地報道によると、米国農務省（USDA）も、禁止された農薬を製造・輸出する企業を米国内に抱えるため、タイ政府に再考を求める書簡を送ったとされ、国内外で今回の政府の決定に抗議する動きが広がっている。

(注) 有害物質法には使用そのものを禁止する規定はないものの、保有が禁止されるため、事実上、当該農薬を使用することができない。

表7 タイの砂糖需給の推移

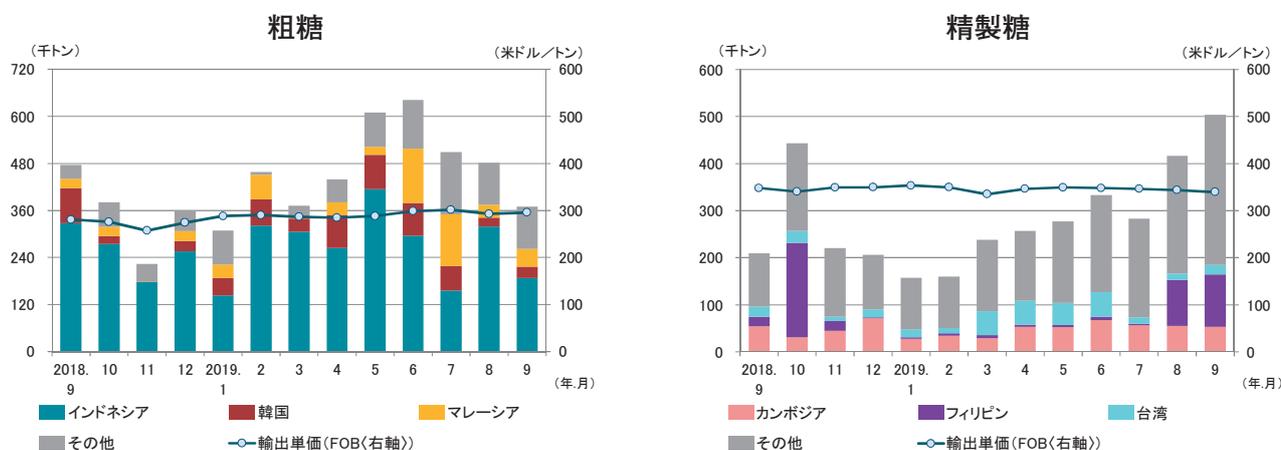
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (10月予測)	2019/20 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,578	1,790	1,792	1,573	1,573	▲ 12.2	
サトウキビ生産量	92,951	134,929	130,970	115,000	115,000	▲ 12.2	
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	13,234	▲ 14.4	
	輸入量	0	6	3	3	0.0	
	消費量	3,283	3,347	3,737	3,812	2.0	
	輸出量	7,393	10,077	10,439	13,021	23.3	
	期末在庫量	3,951	6,119	7,402	3,821	3,956	▲ 46.6
	期末在庫率	37.0	45.6	52.2	22.7	23.7	28.5ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## (参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

## フィリピン

### 2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：42万ha（前年度1.3%増）  
生産量：2425万トン（同11.5%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：210万トン（同1.1%増）  
輸出量：17万トン（同32.8%増）

### 2019/20年度、輸出量は大幅に増加する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、42万ヘクタール（前年度比1.3%増）とわずかに増加すると見込まれている。前年度の生産の落ち込みの反動による影響もあり、サトウキビ生産量は2425万トン（同11.5%増）とかなり大きく増加すると見込まれている（表8）。

しかし、平年より降雨量が多く、日照時間が短かった影響でサトウキビが低糖度傾向にあることから、サトウキビの増産分を打ち消し、砂糖生産量は210万トン（同1.1%増）とわずかな増加にとどまると見込まれている。輸出量は、平年を下回る水準であるものの、前年度の輸出の落ち込みの反動で、17万トン（同32.8%増）と大幅に増加すると見込まれている。

### フィリピンの上院議会、砂糖の輸入自由化を阻止

フィリピンの上院議会は11月11日、砂糖の輸入

規制緩和につながるいかなる法案も議会に提出しないよう政府に求める決議を全会一致で採択した。

フィリピンでは、砂糖の国内需給を調整するため砂糖の輸入量などは砂糖統制委員会（SRA）によって管理されている。しかし、その弊害として生産性向上や合理化によるコスト削減が進まず、国際競争力の低下を招いている上、国内の物価が上昇すると砂糖やそれを原料に使う飲料や調味料などの加工食品の価格が高止まりしてしまう傾向にあった。同国財務省は、こうした状況を問題視し、砂糖の輸入自由化に向けて検討する考えを示していた。

今回の決議を主導した上院議員の農業・食料委員長は、「わが国では、2015年に砂糖の国際競争力の強化を図る目的で措置した砂糖産業開発法に基づき、さまざまな政策が進行している最中であり、現段階で砂糖の輸入自由化に関する議論を開始するのは時期尚早である。また、食生活に不可欠な砂糖の輸入自由化は、食料安全保障の確保を優先課題として掲げるロドリゴ・ドゥテルテ大統領の施政方針に反する」と述べた。

表8 フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	421	418	410	415	1.3	
サトウキビ生産量	28,052	23,861	21,745	24,247	11.5	
砂糖	生産量	2,506	2,084	2,074	2,096	1.1
	輸入量	123	304	664	437	▲ 34.2
	消費量	2,277	2,323	2,347	2,371	1.0
	輸出量	283	205	125	166	32.8
	期末在庫量	594	454	721	717	▲ 0.5
	期末在庫率	23.2	18.0	29.2	28.3	0.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。